

ライオン通信



<URL><http://www.kooge.jp/> <e-mail>info@kooge.jp

Vol.35 平成18年11月10日発行 (月刊誌)

郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0427 鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206-1
TEL(0858)72-1154 FAX(0858)72-1614

鳥取県コンクリート製品協同組合設立

『鳥取県コンクリート製品協会』は9月26日に解散し、翌日付けで『鳥取県コンクリート製品協同組合』を設立しました。この組合には従来の鳥取県コンクリート製品協会からのメンバー7社が引き続き加入しています。鳥取県内に工場を有する会社は全て加入しています。(組合が組合に入ることはできないので、日野建設業協同組合は加入していませんが、相互協力していくことになっています)

先月のライオン通信でも書きましたが、建設業界の川下にいる我々『材料屋』は今最悪の状況にいます。製品の売値は何年も上がっていないのに、近年は石油を初めセメント、鉄筋、骨材などほとんどの材料が値上げされ、苦しい経営を余儀なくされています。全国的に見るとたくさんの同業者が倒産、廃業に追い込まれています。今後はさらにその数が増える見通しです。

今回発展的に『協会』を解散し『組合』へ移行したのは、私たちが団結して協力し合わなければ、各社もたないところまで来ていましたし、行政(発注機関)との連絡(連携)を今まで以上に密にしたかったからです。

今までの『協会』はしょせん任意団体ですのでやはり弱かったのです。私たちは平成14年春から『Gブロック』を製造開始しました。県内で排出される廃ガラス入りのコンクリート製品です。ちょうどグリーン購入法とのタイミングも良く、鳥取県リサイクル製品使用基準の中でも使用を義務付けるA区分として認定していただきました。その後、県発注の工事では優先使用をしていただき、皆で大変喜んだのを覚えています。

なぜかと言うと、それまでは私たちから見るとガリバーのような県外企業と安売り競争をして、すっかり疲弊していたのですが、地元の廃ガラスをリサイクルすることで県からは喜ばれ、しかも県外企業が参入しにくくなったからです。

ところが鳥取県以外の発注機関(市町村、国など)では、私たちのGブロックが優先使用されることはあまりなかったのです。



その理由は二つあります。まず、第一は役所の中ではリサイクルを推進する部署と、公共工事を発注する部署が違うことです。

第二は、私たちは平成14年のGブロックを製造開始と同時に従来の製品(Gブロックでない製品)の製造は止めましたが、Gブロックを作るには、廃ガラスやアル骨抑制剤などを購入しなければなりませんので、かなりコストが上がりましたが県にお願いして従来品より1割だけ設計価格を上げていただきました。

その結果、従来品より1割高いGブロックの設計価格と、1割安い従来品の設計価格と2種類の価格が先月まで明記されていたのです。

市町村は県の設計価格に準じて仕事をしているので、1割安い方の価格表で設計をしていたのです。発注者から見ればコストを削減するのは当然のことですから、それは至極当たり前のことです。このことを私たちは『二重価格問題』といって苦慮しましたが、それがようやく10月に解消されたのです。これでようやく市町村でも今まで以上にGブロックが使用していただけたと思っています。

今後は国土交通省などにも、リサイクル製品Gブロックを使用していただけるよう更にPRして行きます。

今後、ますます公共工事が削減される中で、これからは行政（発注機関）との交渉なりお願い事が増えると思いますが、最初にも書きましたように、任意団体である『協会』の限界を感じていましたので、私たちなりに決断して組合化しました。これからは組合として資材の共同購入を行いますし、時間はかかると思いますが協同販売を目指して行きます。また、組合となったことで溶融スラグのリサイクルも大きく前進すると思っています。今後も地元のお役に立つ企業、組合を目指して頑張りますので、ご指導お願いします。

鳥取県コンクリート製品協同組合

組 合 工 場	住 所	TEL
阪神工業株式会社	鳥取県鳥取市上段 261-1	(0857)24-1840
株式会社 きたむら	鳥取県鳥取市国府町岡益 64-4	(0857)24-0567
和光産業株式会社	鳥取県東伯郡北栄町下神 7-1	(0858)36-2255
日本ハイコン株式会社	鳥取県米子市彦名町 4500-2	(0859)29-0561
株式会社 ホクコン	鳥取県西伯郡大山町神原 113-4	(0859)53-4511
東洋建販株式会社	鳥取県西伯郡伯耆町押口 353-1	(0859)68-3131
郡家コンクリート工業株式会社	鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206	(0858)72-1154



会計検査 Q & A

今月は、『公共工事と会計検査』の安藝忠夫氏からいただいた会計検査報告から、「会計検査Q&A」をご紹介します。みなさまのご参考になれば幸いです。

今月の質問： 調査官は質問の意図を明確にして欲しい

実地検査の際に調査官が発した疑問に答えるため、膨大な資料を徹夜で作成し、翌朝手渡すと「そんな資料まで要らなかったのに」と言われた。会計検査時に的確な対応をとることができるために、調査官は検査の際、もっと質問の意図を明確に示して欲しい。



◆会計検査Q & A続きます・・・

回 答



会計検査の方法については別にマニュアルがあるわけではなく、会計検査院として調査官に「こういう方法で検査すること」と指示を具体的に出していません。

そうした意味では、会計検査においては、調査官の「個人技」が相当認められているといえるし、実地検査という最前線における調査官の判断というものを会計検査の原点として重視しています。

検査の進め方のスタイルは、調査官一人ひとり違いますが、検査においては、初めから問題のポイントが絞られているということは少なく、調査官は試行錯誤しながら疑問点を質問し、問題点の解明を図っていくというのが普通です。

したがって、調査官もわかっていながらあえて質問することもあるれば、本当に知らずに質問する場合などいろいろです。質問の意図がどこにあるかということは、直接受検する人が判断するしかないのではないのでしょうか。意図を明確にしないで質問するというのも検査テクニックとしてあるわけです。



問題なのは、受検側の方が、調査官の質問の趣旨を曖昧なまま受け止めて対応することではないのでしょうか。調査官に対して、質問の意図はともかく、質問の内容については誤解のないようきちんと確認して答弁するのは当然ですし、決して失礼なことではありません。

資料作成に関していえば、変に慎重になったり気を回したりせずに、どれだけの資料を準備する必要があるのかをはっきり聞くべきです。また、調査官側も資料要求する以上必要な項目や内容を明確に伝える義務があります。

シオちゃんの製品紹介コーナー

◆◆◆ スパイクウォール ◆◆◆

今回は、23号でも取り上げた「スパイクウォール」のご紹介です。その後の施工実績・納入実績を、現場写真と共にお届けしますので、どうぞこの機会にご検討ください。

スパイクウォール納入実績表

納 期	物件名	都道府県	施 主	元請	壁高 m
2004年11月	国文都市地区 B14 橋梁工事	大阪	独立行政法人都市再生機構西日本支社	寺西建設(株)	10.9
2004年12月	国文都市 P-1、P-2 地区橋脚補強土壁工事	大阪	独立行政法人都市再生機構西日本支社	(株)ピーエス三菱	3.6
2005年8月	県営中間山地域農村活性化総合整備事業 合河西部地区	福岡	福岡県行橋農林事務所	松本工業(株)	3.6
2006年5月	鳥取自動車道佐用川橋(下部工)工事	兵庫	西日本高速道路(株)津山工事事務所	(株)香山組	9.0
2006年5月	主要県道 光上関線 緊急地方道路整備工事	山口	山口県 柳井土木建築事務所	(株)イワキ	5.4
2006年8月	国文都市 P-2 地区橋脚補強土壁 2 期工事	大阪	独立行政法人都市再生機構西日本支社	(株)熊谷組	3.6
2006年9月	鳥取自動車道中山工事	兵庫	西日本高速道路(株)津山工事事務所	家島建設(株)	16.6
2006年9月	前田山地上デジタル放送所整備工事	香川	NTT(株)	(株)合田工務店	3.9
2006年9月	大分県日出町 別府湾ロイヤル霊園	大分			

◆製品紹介コーナー続きます・・・

◆◆施工状況◆◆

鳥取自動車道佐用川橋(下部工) 施工現場 全景
壁高 H=8.4m



コンクリートパネル



コンクリートパネル組み込み



コンクリートパネル組み込み



水平・垂直状況確認



コンパネとの連結状況



仮止め状況



クサビ等の調整状況



不織布あて状況



連結金具にてコーナー固定



スパイクグリッド敷設状況



コンパネとの連結部



スパイクグリッド敷設完了



盛土状況



転圧状況



◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆

いよいよ鳥取県コンクリート製品協同組合がスタートし、大変嬉しく思っていますし、今後の運営のことを思うと身の引き締まる思いです。
万が一、失敗すれば我々は『明日がない』ことになるからです。
今後、発注機関の方などと話し合い、リサイクルはもちろんコスト縮減も皆で力を合わせて開発していきたいと思えます。
どうぞ、よろしくお願ひします。(山根)



<URL><http://www.kooge.jp/>

<e-mail>info@kooge.jp